

令和3年度山口県環境保健センター 外部評価結果

評価委員会	開催年月日	令和3年8月26日(木) 午後1時30分～午後3時30分 (オンライン開催)	
	委員	〈職名〉 山口大学共同獣医学部教授 消費生活アドバイザー 山口県環境アドバイザー 山口大学大学院創成科学研究科教授 山口大学大学院医学系研究科教授 山口県立大学看護栄養学部教授	〈氏名〉 岩田祐之 島添美葉子 関根雅彦 田邊剛 渡邊朝子
対象調査研究	1 里海里湖流域圏が形成する生物生息環境と生態系サービスに関する検討 (終了 研究期間: R1～R2) 2 環境学習向けマイクロプラスチック調査手法の検討 (終了 研究期間: R1～R2) 3 マイクロプラスチック調査及び調査の手引きを用いた連携に関する研究 (新規 研究期間: R3～R5) 4 山口県産ジビエの細菌等汚染実態調査 (新規 研究期間: R3～R4) 5 地方衛生研究所における病原体検査体制、サーベイランス対応の状況と課題 (終了 研究期間: R2) 6 地方衛生研究所における即応体制と相互支援等の確立に対する研究 (新規 研究期間: R3) 7 愛玩動物におけるSFTSウイルスの検査体制と報告制度の整備の検討 (終了 研究期間: H30～R2) 8 愛玩動物由来人獣共通感染症に関する地方衛生研究所の対応の検討 (新規 研究期間: R3～R5) ※新規: 令和3年度開始した調査研究 終了: 実施が終了した調査研究		
評価方法	総合評価: 5点満点		P2～17 のとおり
評価内容	・調査研究の目的、目標の妥当性 ・県の政策・施策等の対応 ・県民及び社会的な益 ・研究者の技術向上、能力開発 ・調査研究手法、方法の改善点等の助言等について自由記載		

委員の意見等と担当者の説明

番号 1	担当者：梶原文裕
里海里湖流域圏が形成する生物生息環境と生態系サービスに関する検討 (終了 研究期間：R1～R2)	
総合評価 (3.8)	
委員意見等	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査研究の目的、目標の妥当性 共同研究の本県の役割としてのアサリ資源の保全回復は十分貢献できる内容である。 ・ 県の政策・施策等の対応 本県の生物生息環境・生態系サービスの保全に対応している。 ・ 調査研究手法、方法の改善点等の助言 <ol style="list-style-type: none"> 1) フロート付被覆網の検討については成果が現れており、期待できる内容となっている。しかしながら、鉄筋網の破損・環境流出防止、その回収方法、環境に配慮した材質の使用などに留意されたい。 2) たまねぎネットを用いた稚貝育成については一定の効果が見受けられるが、穴があくようなトラブルや、プラスチックの環境流出の観点から、その材質等に工夫が必要かもしれない。 	
<p>これまでの関連研究も含め、地元協議会等との協働が継続的に行われていることは、県民の里海への関心を深め、本県の環境教育の推進にも大きく貢献している。</p> <p>近年、環境問題はSDGsの中にきちんと位置付けて発信することが求められるようになった。本研究の成果を地元や県民にフィードバックする際にはこの点を意識して情報の表現等を整理し、関係部局とも協議の上、県として統一感のある形でなされることを望む。加えて、協働する団体等が配布するイベントのチラシやネットでの告知には必ず本センターの名前を適切に入れてもらうなど、本センターが科学的根拠の部分に大きく寄与していることを広く知らせることも忘れないでほしい。</p> <p>稚貝調査をイベントに組み込むことには大賛成である。専門家の指導の下で変化を実感しながら調査に複数回関われることは、子どもたちの体験に物語性を与え、興味を深化させる。その子たちの中から未来の研究者が生まれることも大いに期待したい。</p> <p>玉ねぎネット活用の可能性も大きいと感じるが、海洋プラスチックへの関心の高まりもあり、使用するネットの素材等への留意も必要だろう。</p>	
<p>長年取り組んでいる課題ですが、他地域との情報交換によりフロートつき網、たまねぎネットなど新しい試みを導入して効果をあげておられるのは素晴らしいと思います。</p> <p>共同研究を行う他組織のテーマであるブルーカーボンは、当県でも話題になりつつあります。他組織での知見や考え方を取りまとめられ、当県におけるブルーカーボンの有効性の判断につなげていただきたいと思います。</p>	

安定した成貝数の増加が得られており、有効かつ安価な方法が確立できている。

II型研究として、山口県の役割を的確に果たしておられ、また、他の地域での波及効果もみられ、継続が期待されます。

質問ですが、たまねぎネットに表砂をいれ、大プールにおいておけば、そのうち成貝になるように思えるのですが、違いますか？表砂だけを大プールに置いておいた場合、稚貝の数や成貝の数にどれくらいのばらつきが出ますか？
今回設置した、各たまねぎネットのn数を教えてください。

〈担当者説明〉

たまねぎネットに表砂を入れ、大プール中で成長させる件については、たまねぎネットには、長期間の設置に耐えられる耐久性が無く、穴が開く等して貝が流出するため、長期の設置には不向きです。

成長については、厳密に比較したものではありませんが、干潟の被覆網下のアサリと比べると、一定程度の大きさになると成長が緩やかになるように感じています（おそらくネット内でアサリが過密になるためと推測しています）。

したがって、現時点では一定期間たまねぎネットで育て、その後、被覆網下で更に大きくしていく方法がよいと考えています。

また、表砂だけを大プールに置いた場合の稚貝及び成貝数のばらつきの件については、砂のみを入れて比較はしていませんが、プール設置後にアサリ数を確認したところ、ほとんど確認できませんでしたので、対照区と似た結果（稚貝：0～772 個/m²、成貝：0～12 個/m²）になると考えます。

なお、今回設置した各たまねぎネットのn数は、3です。

番号 2	担当者：梶原文裕
環境学習向けマイクロプラスチック調査手法の検討	
(終了 研究期間：R1～R2)	
総合評価 (3.8)	
委員意見等	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査研究の目的、目標の妥当性 従来から海洋プラスチックごみによる環境汚染問題が取り沙汰されており、環境学習の観点から評価できる。 ・ 県の政策・施策等の対応 海外漂着物等対策（発生抑制）に資する調査としてある程度評価できる。また、環境学習としては十分対応している。 ・ 県民及び社会的な益 プラスチックの3Rを推進する上で効果が期待される。 ・ 調査研究手法、方法の改善点等の助言 本研究課題における調査手法とその手引きの作成については評価できる。しかしながら、海洋マイクロプラスチック汚染の指標として本法がどの程度反映されるのか、今後の実態調査を踏まえた検討が必要と考える。 	
<p>環境学習の手引き作成という目的の成果は得られている。今後は、同様のツールを試みている他県等との情報交換や手引きを活用する中で得られる改善点なども踏まえ、積極的に改訂を重ねることが必要である。</p> <p>同時に、調査手法の存在を広く県民に知らせる努力も必要だろう。この手引きを活用して得られた調査結果を事例としてまとめ本センターのHP等に掲載したり、調査の様子をローカルテレビ局等に取材してもらったりなど、手段はいろいろあると思う。</p> <p>本研究及び継続研究が、本県の海洋プラスチックの現状とその地域性を明らかにし、多様な主体との連携を通じて、広く県民の環境意識の深化に寄与することを望む。</p>	
<p>環境学習用として簡易な調査手法を開発されたことは高く評価されます。</p> <p>材質、色、その他の属性の目視などによる評価や、マクロプラスチック・漂着ごみの記録なども検討いただければ、モニタリング手法としてもより価値が上がると考えます。</p> <p>各地・各時期のマイクロプラスチック汚染が比較できるよう、全国的な標準化を目指していただきたいと思います。</p>	
<p>詳細な解析結果が得られ、さらに手引き作成等の啓発活動に結びつけている点が大いに評価できる。</p>	

マイクロプラスチックの調査手法を比較的簡易な形で提示されたことについては、子供の環境学習に有効だと思いました。この調査をどの範囲でどれくらいの期間実施され、集計していかれるのか、そのデータをどのように活用されるのかを教えてください。

〈担当者説明〉

当該調査の集計範囲と期間については、令和5年までに県内20以上の海岸で実施する予定としています。その後は、同手法を用いた調査結果をご提供頂き、その結果をホームページ上で公開していく予定としております。

また、データの活用方法については、当該調査やマイクロプラスチックに関する環境学習を実施する上での資料として活用する予定です。

番号 3	担当者：梶原文裕
マイクロプラスチック調査及び調査の手引きを用いた連携に関する研究 (新規 研究期間：R3～R5)	
総合評価 (4.2)	
委員意見等	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査研究の目的、目標の妥当性 環境教育・エシカル消費の普及などの目的は評価できる。但し、調査手引書における海洋マイクロプラスチックと河川プラスチックごみの関連を明確にされたい。 ・ 県の政策・施策等の対応 河川プラスチック調査の意義が理解されると、海岸漂着物対策推進地域計画への対応が明確になる可能性がある。 ・ 県民及び社会的な益 環境教育によりプラスチックごみの削減につながる。 ・ 調査研究手法、方法の改善点等の助言 河川プラスチックごみの調査結果により、どのような汚染指標・分類が考えられるか、環境教育の視点から検討されたい。 	
<p>〈担当者説明〉</p> <p>調査手引書における海洋マイクロプラスチックと河川プラスチックごみの関連についてですが、河川プラスチックごみ調査を今年度から実施するため、現在の手引きには関連の記載がありませんが、手引き改訂の際には、調査結果と共に河川から排出されるプラスチックごみは、海洋プラスチックごみの主要な排出元であり、微細化することで、海洋マイクロプラスチックの元となること等、関連を追記します。</p>	
<p>例えば、各地で学校を主体に取り組んでいる蛍の飼育・放流に見られるように、1つの課題について自分の住む地域に目をむけることは、故郷への愛着につながりひいてはまちおこしなど経済活動をも包含する形で広がっていく…、足元からの環境問題への取り組みとはそんな力を持っている。</p> <p>そこで、本テーマについても、県内の調査対象となる地域を校区内に持つ学校等を指定校の様に選定し、学校活動の一環として子どもたちが代々調査を受け継ぎ、それを地域住民が支援するという形でこの研究成果を活用するような仕組みは作れないだろうか。学校等の選定は公募でもいいし、コミュニティスクール制度の中に取り込んでもらうような形でもいいと思う。</p> <p>調査時にマクロプラスチックも同時に記録することや、河川プラスチックごみの研究を踏まえた形で改訂を行うことはいい方向性だと思う。</p> <p>プラスチックの種類の見分け方については、燃やした時のススの出方や比重を比べる方法などが、近年、中学校の理科の教科書等でも実験・観察として取り上げられている。参考とされたい。</p>	

国内のマイクロプラスチックの汚染状況の情報はまだまだ不足しています。特に河川や湖沼の情報が少ないです。

課題2で述べた、

- 材質、色、その他の属性の目視など簡易手法による評価
- マイクロプラスチック・漂着ごみの記録
- 全国的な標準化

などを継続して検討いただき、環境学習だけでなく、モニタリング手法としての有効性を高めることを目指してください。

成果を期待いたします。

なお、マイクロプラスチックの生態系への影響は、ほとんど実証されていません。生態系への影響の実例の発見につながるような観察項目を考案いただくと素晴らしいと思います。

詳細な解析結果を基に、さらに手引き作成等の啓発活動に結びつけている点が大いに評価できる。

マイクロプラスチックは、一つの環境破壊因子であり、これを身近に観察することは、環境学習としては効果があると思います。しかし、最も必要なことは、行動変容を起こさせることだと思いますので、環境学習に参加した後、一人ひとりがどのように変化したのかを把握する仕掛けを作る必要があるように思いました。

様々な環境学習で共通に使えるものがあると、行動変容に効果的な環境学習教材がどのようなものなのかがわかるとと思います。

番号 4	担当者：尾羽根紀子
山口県産ジビエの細菌等汚染実態調査	
(新規 研究期間：R3～R4)	
総合評価 (4.0)	
委員意見等	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査研究の目的、目標の妥当性 法律に基づいて食肉としてのジビエの利用を促進するためには細菌汚染実態調査は重要であり、食肉処理工程の安全性の検証、食中毒や人獣共通感染症の把握にもつながる。 ・ 県の政策・施策等の対応 山口県の衛生管理ガイドラインによる管理の妥当性が検証できる。 ・ 県民及び社会的な益 ジビエの安全性が評価されれば、県民は食肉として安心して利用できる。 ・ 調査研究手法、方法の改善点等の助言 今回の調査項目に対しては技術的な問題は考えられないが、汚染状況によっては食中毒菌や他の病原体の検査も考慮されたい。 	
<p>〈担当者説明〉</p> <p>調査結果を関係部局と共有することで政策の材料として活用頂き、ジビエに携わる関連事業者にも周知され、ジビエの安全性に反映されることを希望致します。 食中毒菌等の検査は、関係部局との協議が必要と考えます。</p>	
<p>健康志向の高まりとともにジビエ加工品への消費者の関心は強くなっており、各地でジビエに焦点を当てた地域おこしなども盛んになっている。その中で、本調査は県産ジビエに対する安全・安心のベースを支えるという意味で、意義は大きい。調査手法等が確立された後には、検体数の増加や検査項目の追加等にも意欲的に取り組んでほしい。</p> <p>言うまでもなく、野生鳥獣には県境など意味をなさないものであることから、近隣県との情報交換が重要である。</p> <p>情報提供のあり方については一般にスーパー等で流通する食肉とは違い、県民にいらぬ不安を抱かせず安心感につなげ、かつ、特産品という地域ブランドを守るといように、社会学的な視点も必要であり、かなり工夫が求められる。</p> <p>(情報提供のあり方の検討に当たっては、島根県の中山間地域研究センターとの情報交換をお勧めする。このセンターは平成8年の中国地方知事会において、中山間地域の抱える課題解決を目指し島根県の研究センターを中国5県の共同研究センターとして位置付ける、とされた後に設立された経緯があり、中山間の野生鳥獣をとりまく課題を様々な領域からとらえた中で研究を進めるには参考となることも多いと思う。)</p>	
<p>〈担当者説明〉</p> <p>ご教示ありがとうございます。 公表に際しては、関係部局と協議の上慎重に行って参ります。</p>	

実態が把握されていないジビエの衛生状態の管理につながる重要な研究であると考えます。

既存の食肉と同等の安全性が確保できるよう、早急に研究を進めていただきたい。

〈担当者説明〉

調査結果を関係部局と共有します。各担当部局で政策の材料として活用され、衛生管理等に対応されることを希望致します。

自分で猟をしたジビエを出している店も多いので、今後も情報が求められる重要な分野と考えられる。

〈担当者説明〉

この調査結果を関係部局と共有します。調査結果を各担当部局で政策の材料として活用頂き、ジビエに携わる関連事業者にも周知され、ジビエの安全性に反映されることを希望致します。

ジビエの衛生状態は、興味があります。野山で捕獲され、近くの川で血抜きされる？（工程がわからないので頓珍漢なイメージかもしれません。）

できれば、ウェルシュ菌も調べていただきたいと思うのですが、難しいでしょうか。

ただ、ジビエで最も問題になるのは、生や半生で食す場合なのでE型肝炎ウイルスや食中毒菌の検出は是非検討していただきたいと思います。

ところで、どこで入手されるのでしょうか？お店？処理場？冷凍品？冷蔵品？検査対象品の情報を少し教えてください。

〈担当者説明〉

実際の処理工程については、把握しておりません。

ウェルシュ菌を含めた食中毒菌等は、関係部局との協議が必要と考えています。

今回の検査対象品は、市販ジビエの要加熱食品です。これらを食品衛生法の許可を得た店で、生肉の冷凍食品又は冷蔵品を購入致します。

番号 5	担当者：調 恒明
地方衛生研究所における病原体検査体制、サーベイランス対応の状況と課題 (終了 研究期間：R2)	
総合評価 (4.8)	
委員意見等	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査研究の目的、目標の妥当性 COVID-19 に関する検査、情報発信、体制整備についての全国調査であり、その目的は十分評価できる。また、検査精度、ウイルス分離による感染生評価など重要である。 ・ 県の政策・施策等の対応 感染症対策の根幹を成すものであり、県の感染症対策に即したものである。 ・ 県民及び社会的な益 山口県の感染状況を正確に把握することで、感染予防に資するものとなる。 ・ 研究者の技術向上、能力開発 地方衛生研究所における検査精度の管理、ウイルス量と臨床経過との関連、分離技術等の技術向上に資する。 ・ 調査研究手法、方法の改善点等の助言 検査精度、ウイルス分離による感染性評価などコロナ対策として十分期待できる。しかしながら、最近の感染状況では保健所・地方衛生研究所の業務が繁忙となっており、地域によっては協力機関との役割分担等、効率化なども検討する必要がある。また、感染状況に応じたクラスター対策の方法・意義も見直したいところである。 	
<p>地方衛生研究所が自治体における科学的・技術的中核機関として欠くことのできない存在であることが本研究によって明確となり、全国検査体制の迅速な立ち上げを通じて新型コロナウイルスの封じ込め対策に大きく貢献したことに疑いの余地はない。</p> <p>しかしながら、新型コロナウイルス対策ほど、都道府県単位の対応の格差が国民の目に明らかとなったことはないだろう。この地域格差から見てきた課題も多いように思われる。浮き彫りとなった課題に対応し、各県の地域性も踏まえたうえで全体としてどのように対策を拡充していくのか、本研究を踏まえた後継の研究に期待する。</p> <p>地方衛生研究所は、今後も発生が予想されるパンデミック対策の特に初期対応の要となるものである。新型コロナ対応の全国的な振り返りとともに、山口県としてはどうだったのかの検証とその公表も必要だろう。</p> <p>(以下は余談であるが、いずれ時期を見て、例えばローカルテレビ等で山口県の新型コロナ対応を振り返るような特集が組まれたりすると、本センターの果たした役割も県民に理解され、更なる安心感につながるだろうと、個人的には思っている。)</p>	
<p>新興感染症への備えは極めて重要な課題です。</p> <p>地方衛生研の果たした役割を早期に定量的に評価できたことは意義が大きいと考えます。</p> <p>他機関との機能の重複や果たせた役割の軽重についても定量的に検討し、機能分散か機能集中かなどの検討に役立てることができればさらによいと考えます。</p>	

今後の発展につながる素晴らしい成果が上げられている。

日々、大変な業務にあたられて、改めて所員の皆様に敬意を表します。

地方衛生研究所が各地域で縁の下の力持ち的な役割を果たしておられ、それに光が当てられた、という状況でしょうか。全国の地方衛生研究所の検査精度格差が埋められてきたことについても、素晴らしい成果と思います。ここまでの体制整備、お疲れ様です。

番号 6	担当者：調 恒明
地方衛生研究所における即応体制と相互支援等の確立に対する研究 (新規 研究期間：R3)	
総合評価 (5.0)	
委員意見等	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査研究の目的、目標の妥当性 感染症対策を強化する上で、種々の観点から分析することは十分妥当性がある。 ・ 県の政策・施策等の対応 COVID-19をはじめ、感染症防疫の観点から県の施策に十分対応したものである。 ・ 県民及び社会的な益 地方衛生研究所の感染症対策の能力評価は、体制改善に有効であり県民の健康を守る上で有益である。 ・ 調査研究手法、方法の改善点等の助言 感染症危機対応の強化につなげられるよう、本研究の成果に期待したい。 	
<p>本研究で、今回のコロナ禍への対応が網羅的に検証されることは、各県における感染症対策の初期対応の充実に大きな力となるだろう。一国民としては、検疫との連携、都道府県と中核市の連携などの課題が特に気になるところである。</p> <p>今後、地方衛生研究所が必要不可欠な行政インフラと位置付けられ、次なる感染症有事に備えた拡充がなされるべきであり、本研究で得られる成果がその実現に大きく寄与することを期待する。</p> <p>今回のコロナ禍でデジタル化の遅れも浮き彫りとなったことから、感染症対応の体制整備は国や地方自治体のデジタル対応にもリンクすべきである。例えば本県についていうなら「やまぐちデジタル改革基本方針」に沿った事業化の中で、感染症対策の視点が忘れられないように必要に応じて専門的な立場からの助言をする役割は本センターにあると思う。</p> <p>更に言えば、「コロナ禍は、もはや災害である」の言葉通り、今後予想されるパンデミック対応に備えて、県などが主体となり防災・減災の観点から関係機関を集めた訓練のようなものを定期的実施することがいずれ必要となるかもしれない。自然災害と感染症蔓延が重なる複合災害への準備が叫ばれていることから、そのような際にも地方衛生研究所の持つ専門性が果たす役割は大きく、対策全体の中での位置づけの明確化が必要だと思う。</p>	
<p>新興感染症への備えは極めて重要な課題であり、即応体制と相互支援等の確立は喫緊の課題です。大いに期待します。</p> <p>地域衛生研究所だけでなく、他機関との機能の重複や果たせた役割の軽重についても定量的に検討し、国として最適な即応体制の構築に役立ててほしい。</p>	

現在の日本において最も重要な課題であり、これまでの成果を基に大いに発展が期待できる。

地衛研間の検査体制・精度の標準化は、全ての都道府県等で求められていることだと思えます。

全国で地方衛生研究所の重要な役割が地域住民に認知されると共に、安全な建物、先端の機器類、人的資源が充足されることを切に願います。

番号 7	担当者：調 恒明
<p>(研究開発課題名) 愛玩動物由来人獣共通感染症に対する検査及び情報共有体制の構築 (分担研究開発課題名) 愛玩動物におけるSFTSウイルスの検査体制と報告制度の整備の検討 (終了 研究期間：H30～R2)</p>	
総合評価 (4.2)	
委員意見等	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査研究の目的、目標の妥当性 愛玩動物における SFTS の発生状況を把握することで、地域汚染の状況を把握し、感染リスクを評価できる。 ・ 県民及び社会的な益 地域のマダニの汚染状況を含めて感染リスクを知ることによって予防につながる。 ・ 研究者の技術向上、能力開発 SFTSV に対する ELISA 抗体検査、PCR 検査の技術取得、検査精度の確立に資する。 ・ 調査研究手法、方法の改善点等の助言 疫学調査としての手法としては優れたものであるが、愛玩動物を診断法としては検査対象の選別が重要である。また、異常検査所見等を全て満たす必要があるのか、またどの項目が必要なのかも検討する必要がある。 	
<p>SFTSは、ペットからヒトへの感染経路の存在が知られるようになってからまだ日が浅いため、実態を把握し、普遍的な検査・報告体制を構築することは急務である。本研究において、獣医師、医師、行政が連携する中で情報が共有され、検査体制や報告の在り方に1つの道筋がつけられたことは大きな成果である。他の人獣共通感染症に対象を広げた継続研究に期待している。</p> <p>多くの日本人にとって狂犬病は過去のものであるが海外においては現在進行形の問題であり、人の往来のグローバル化や昨今のペットブームを受けて人獣共通感染症の脅威は再び高まってきており、広く注意喚起することが必要な状況にある。</p> <p>住民の動物病院への通院も一般化し、動物医療にかかわる人々も増えている今、動物病院の獣医師、動物看護師等に認識を深めてもらうことが、彼らの診療時の感染リスクを軽減するとともに速やかな報告につながるものと思われる。またそれは、飼い主に直接的に情報を届けて注意喚起し、必要な場合には飼い主自身の医療機関への受診を促すことにも効果的である。動物病院等を通じた啓発にも今まで以上にこの成果を活用してほしい。</p>	
<p>家族の愛玩動物への接し方を見るにつけ、個人的にも興味深い研究です。</p> <p>資料や説明からは、愛玩動物を飼育する各個人がどう行動すべきかが見えず、題目通りの「検討」に留まっているように思われます。リスクの大きさやリスクを避ける方法について、正しい知識が広く一般に周知されるよう結果をとりまとめたいただきたい。</p>	

日本の代表となる素晴らしい成果が上げられている。

地衛研の検査体制・検査能力の標準化や、ネットワークづくりに大きく貢献していると思います。次の課題では協力機関も増えているようですので、今後の体制強化にも期待ができます。

番号 8	担当者：調 恒明
愛玩動物由来人獣共通感染症に関する地方衛生研究所の対応の検討 (新規 研究期間：R3～R5)	
総合評価 (4.8)	
委員意見等	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査研究の目的、目標の妥当性 愛玩動物由来感染症は少なからず重篤化する疾病が含まれ、情報を共有し、対策 ・ 現場対応等を改善していく上で有用な内容と言える。 ・ 県の政策・施策等の対応 愛玩動物由来感染症対策の有用性は全国的な認識に立っており、県の施策とも共通する。 ・ 県民及び社会的な益 愛玩動物飼育者、動物関係者などへの知識の啓蒙、疫学情報を提供することでリスク管理が可能であり、県民の防疫にも有用である。 ・ 研究者の技術向上、能力開発 愛玩動物由来感染症に対する認識を深めるとともに、発生時の検査、予防、情報収集など迅速かつ的確に対応することが可能となる。 ・ 調査研究手法、方法の改善点等の助言 患者発生から愛玩動物への診断等のアプローチだけでなく、感染動物の特定（診断）からの発生リスク評価・予測なども検討されることを期待する。 	
<p>民間調査の推計では、犬猫だけで飼育頭数は 2000 万頭を超え、15 歳未満の子どもの人口を超えたと言われて久しい。近年ではコンパニオンアニマルとしての需要が増し、室内飼育が一般化してペットと人の関係がより密接なものとなっており、それにともないペット由来の人獣共通感染症の脅威は高まっているが、国民の反応はいまいち鈍いままである。</p>	
<p>動物間の流行が変異株を生み、ヒトへと感染することが新たな新興感染症の出現につながりかねないという危機感の下、新型コロナ対応と同様に地方衛生研究所は研究対象感染症等の実態把握と制御体制の要となることが求められている。</p>	
<p>本研究を通じて、情報の集約と発信が一元化され、自治体の取り組みが全国的にきちんと体系化されることが望まれる。それは、行政からのみならず、動物病院やペット保険会社など飼い主にごく近い関係先からの繰り返しの注意喚起につながり、予防や発生時の情報収集にも大きな力となると思う。</p>	
<p>家族の愛玩動物への接し方を見るにつけ、個人的にも興味深い研究です。 リスクの大きさやリスクを避ける方法について、正しい知識が広く一般に周知されるよう結果をとりまとめていただくことを期待します。</p>	
<p>今後も重要な感染症の調査研究の中心として大いに期待できる。</p>	

県民の安全、という観点から、感染症に境界線はないため、国との連携により全国の地衛研で取組む体制は、あるべき姿だと思います。また、人獣共通感染症の場合、ヒトも動物も分け隔てなく、縦割りをなくして検査体制を充実させていくことは、様々な局面で必要とされていることだと思います。担うべきことが多く、施設や人資源の充実が望まれます。